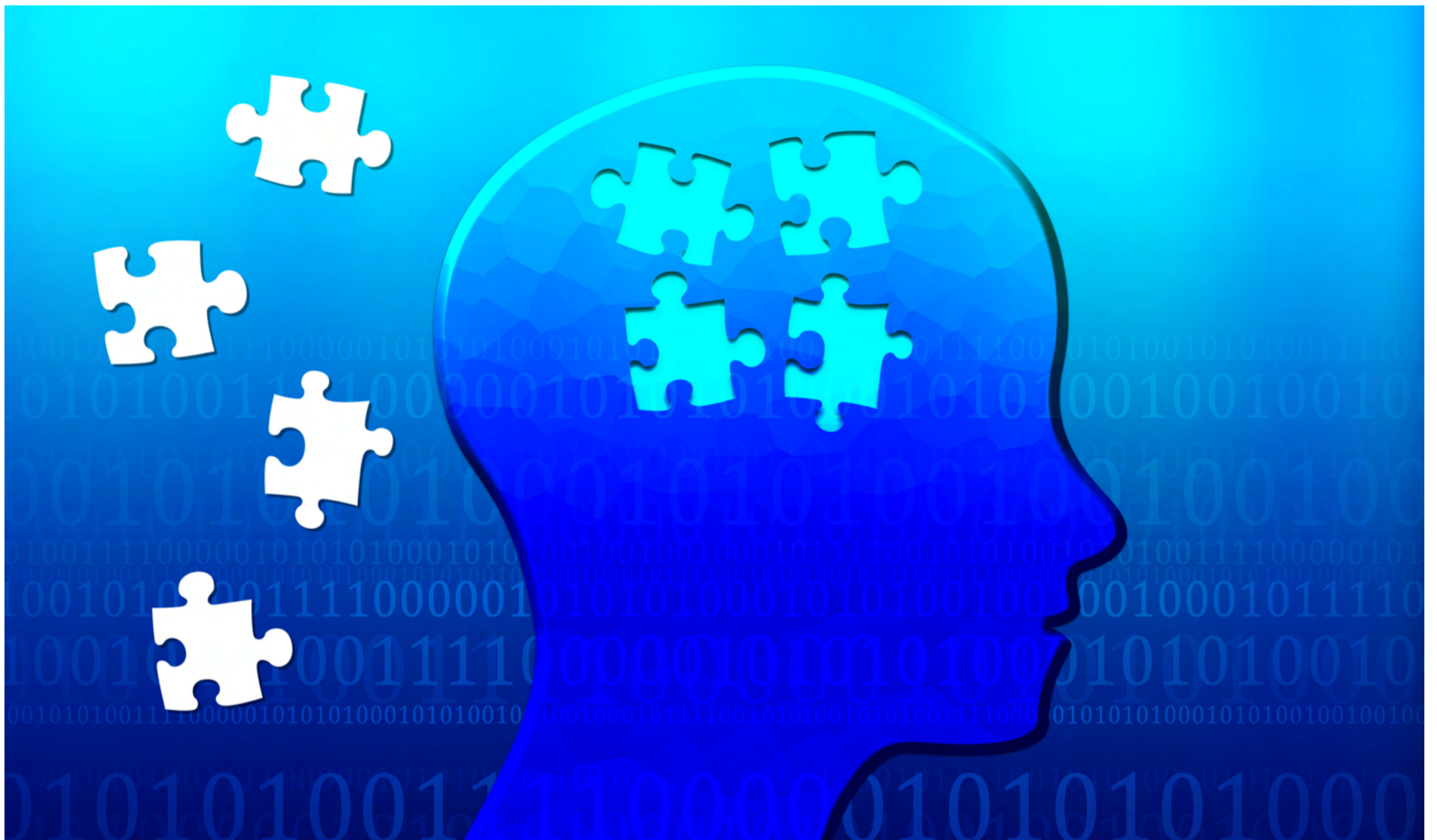


難聴は認知症の 最大の原因になる!?



2017年7月、国際アルツハイマー病会議において、ランセット国際委員会が「認知症の症例の約35%は潜在的に修正可能な9つの危険因子に起因する」と発表しました。「難聴」は「高血圧」「肥満」「糖尿病」などとともにより9つの危険因子の一つに挙げられましたが、その際「**予防できる要因の中で、難聴は認知症の最も大きな危険因子である**」という指摘がなされたのです。近年の国内外の研究によって、難聴のために、音の刺激や脳に伝えられる情報量が少ない状態にさらされてしまうと、脳の萎縮や、神経細胞の弱まりが進み、それが認知症の発症に大きく影響することが明らかになってきました。

また、難聴のためにコミュニケーションがうまくいかなくなると、人と会話をつい避けるようになっていきます。そうすると、次第に抗うつ状態に陥ったり、社会的に孤立してしまう危険もあります。実はそれらもまた、認知症の危険因子と考えられています。だから、**「難聴が最も大きな危険因子」**とされているのです。

「よい聞こえ」認知症予防につながる！

ただ、この事実は、難聴に対処することで認知症が積極的に予防できることも意味しています。

つまり、補聴器をつけるなどして難聴に正しく対処しましょう。補聴器をつけることに抵抗を感じる人がいるかもしれませんが、「よい聞こえ」を取り戻すことは、QOL(Quality of life=生活の質)を高めるだけでなく、認知症を予防することにもつながります。**補聴器とはいつまでも若々しく健康的でいるためのいわばアンチエイジンググッズなのです。**

出典：日本耳鼻咽喉科学会 公式ホームページ

